

大学番号 私立専大3

注3

設置年度 令和 二年度

計画の区分： 専門職大学の設置

注1

認可

9月10日現在差替版

東京国際工科専門職大学

工科学部

情報工学科

注2

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人日本教育財団

令和3年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名	大学本部
職名・氏名	シヨジ サイ トワ ア キ 主事 斎 藤 亜 希
電話番号	03-3344-5005
（夜間）	03-3344-5005
e-mail	daigaku.renraku@tokyo.iput.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
() 書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

・大学の設置の場合：「〇〇大学」

・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」

・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」

・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」

・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」

・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」

・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」

・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和3年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

工科学部

<情報工学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	13
4. 既設大学等の状況	16
5. 教員組織の状況	18
6. 附帯事項等に対する履行状況等	28
7. その他全般的事項	31

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人日本教育財団

(2) 大学名

東京国際工科専門職大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒160-0023
東京都新宿区西新宿1-7-3

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(カスヤ トシヒコ) 粕谷 俊彦 (昭和46年4月)	—	
学長	(ヨシカワ ヒロユキ) 吉川 弘之 (令和2年4月)	—	
副学長	(トミヤマ テツオ) 富山 哲男 (令和2年4月)	—	
学部長	(トミヤマ テツオ) 富山 哲男 (令和2年4月)	—	
学科長	(フジイ タツヤ) 藤井 竜也 (令和2年4月)	—	

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和2年度に報告済の内容 → (2)

令和3年度に報告する内容 → (3)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載してください。その場合別ファイルを作成し提出してください。
- ・ 様式は、平成29年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和2年度までの5年間）ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
工科学部 情報工学科 情報工学士（専門職）	工学関係	4年	120人	年次 -人	480人	新規入学者を募集集中	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」）の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	-	-	-	-	-	-	120	-	120	-	1.07倍	— 倍	
志願者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	463	-	354	-			
受験者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	439	-	340	-			
合格者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	149	-	132	-			
B 入学者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	138	-	119	-			
入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	-	-	1.15	-	0.99	-			

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ （ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、（（ ）書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和3年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	130 [3] (-)	- [-] (-)	132 [2] (13)	- [-] (-)	
2年次	/		- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	117 [3] (-)	- [-] (-)	
3年次			/		/		- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)
4年次	/						/		- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)
計			- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)			130 [3] (-)	249 [5] (13)	

・令和3年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、**留学生の状況について内数で記入**してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、**留年者の状況について、内数で記入**してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ **編入学生や転入学生も含めて記入**してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。**春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」**を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成29年度	- 人	- 人	平成29年度	- 人	- 人	
平成30年度	- 人	- 人	平成29年度	- 人	- 人	
			平成30年度	- 人	- 人	
令和元年度	- 人	- 人	平成29年度	- 人	- 人	
			平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
令和2年度	138 人	8 人	平成29年度	- 人	- 人	
			平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	8 人	0 人	就学意欲の低下(1人)、就職(3人)、学生個人の心身に関する事情(3人)、他の教育機関への入学(1人)
令和3年度	249 人	0 人	平成29年度	- 人	- 人	
			平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
			令和3年度	0 人	0 人	
合 計		8 人		8 人	0 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。

(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{8}{138} = \boxed{5.79} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{249} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<工科学部 情報工学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	英語コミュニケーション I a 英語コミュニケーション I b 英語コミュニケーション II a 英語コミュニケーション II b 英語コミュニケーション III a 英語コミュニケーション III b 英語コミュニケーション IV 小計(7科目)	1前	2					1			兼4	
		1後	2					1			兼4	
		2前	2					1			兼4	
		2後	1					1			兼4	
		3前	2					1			兼4	
		3後	1					1			兼4	
		4前	1					1			兼4	
	小計(7科目)	—	11	0	0	0	0	1	0	0	兼6	
	コミュニケーションツール	1後	1								兼1	
		小計(1科目)	—	1	0	0	0	0	0	0	0	兼1
社会と倫理	3前	2								兼1		
	小計(1科目)	—	2	0	0	0	0	0	0	0	兼1	
基礎科目	比較文化論 感性をはかる コミュニケーションと記号論 小計(3科目)	1前	2							兼1		
		1前	2			1					兼1	
		1後	2								兼1	
小計(3科目)	—	6	0	0	1	0	0	0	0	兼2		
職業専門科目	実習科目 臨地実務実習 I【臨】 臨地実務実習 II【臨】 臨地実務実習 III【臨】 ソリューション開発 I【※】 ソリューション開発 II【※】 小計(5科目)	2通	5			2	2					
		3通	8			4	1					
		4通	8			2	2	1				
		3通	2			2	1					
		4前	4			1	2					
	小計(5科目)	—	26	0	0	9	2	2	1	0	0	
	実習科目 A 群	人工知能システム開発 I【※】 メディア情報処理実習【※】 人工知能システム開発 II【※】 人工知能応用【※】 小計(4科目)	2前	2		1						
			2後	1		2						
			3前	3		2						
			3後	2		1			1			
小計(4科目)	—	0	8	0	4	0	0	1	0	0		
実習科目 B 群	IoTシステム開発 I【※】 IoTシステム開発 II【※】 IoTサービスデザイン【※】 小計(3科目)	2前	3		1	1						
		3前	3		2							
		3後	2		2							
小計(3科目)	—	0	8	0	4	1	0	0	0	0		
実習科目 C 群	組込みシステム制御実習【※】 自動制御機械開発実習【※】 産業用ロボット実習【※】 小計(3科目)	2前	3		1							
		3前	3		1							
		3後	2		1							
小計(3科目)	—	0	8	0	2	1	0	0	0	0		
講義・演習科目	情報工学概論 デザインエンジニアリング概論 C言語基礎 エレクトロニクス工学 コンピュータシステム 情報数学 線形代数 解析学 組込みC、C++言語 回路・プリント基板設計 確率統計論 プログラミング概論 データベース基礎と応用 技術英語 ソフトウェアシステム開発 情報セキュリティ応用 小計(16科目)	1前	2			3						
		1前	3			1						
		1前	3									兼1
		1前	3									兼1
		1前	2			1						
		1後	2									兼1
		1後	2									兼1
		1後	2									兼1
		1後	3					1				
		1後	3			1						
		2前	2									兼1
		2前	2			1		1	1			
		2前	2			1						
		3前	2			1						
		3前	2			2		1				
		3前	2			1						
小計(16科目)	—	37	0	0	10	0	1	1	0	0	兼4	

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	英語コミュニケーション I a 英語コミュニケーション I b 英語コミュニケーション II a 英語コミュニケーション II b 英語コミュニケーション III a 英語コミュニケーション III b 英語コミュニケーション IV 小計(7科目)	1前	2					1			兼3	
		1後	2					1			兼3	
		2前	2					1			兼4	
		2後	1					1			兼4	
		3前	2					1			兼4	
		3後	1					1			兼4	
		4前	1					1			兼4	
	小計(7科目)	—	11	0	0	0	0	1	0	0	兼8	
	コミュニケーションツール	1後	1									兼1
		小計(1科目)	—	1	0	0	0	0	0	0	0	兼1
社会と倫理	3前	2									兼1	
	小計(1科目)	—	2	0	0	0	0	0	0	0	兼1	
基礎科目	比較文化論 感性をはかる コミュニケーションと記号論 小計(3科目)	1前	2					1			兼1	
		1前	2					1			兼1	
		1後	2									兼1
小計(3科目)	—	6	0	0	2	0	0	0	0	兼2		
職業専門科目	実習科目 臨地実務実習 I【臨】 臨地実務実習 II【臨】 臨地実務実習 III【臨】 ソリューション開発 I【※】 ソリューション開発 II【※】 小計(5科目)	2通	5			2	3					
		3通	8			4	1					
		4通	8			2	2	1				
		3通	2			2	1					
		4前	4			1	2	1				
	小計(5科目)	—	26	0	0	8	2	3	1	0	0	
	実習科目 A 群	人工知能システム開発 I【※】 メディア情報処理実習【※】 人工知能システム開発 II【※】 人工知能応用【※】 小計(4科目)	2前	2		1						
			2後	1		2						
			3前	3		2						
			3後	2		1			1			
小計(4科目)	—	0	8	0	4	0	0	1	0	0		
実習科目 B 群	IoTシステム開発 I【※】 IoTシステム開発 II【※】 IoTサービスデザイン【※】 小計(3科目)	2前	3		1	1						
		3前	3		2							
		3後	2		2							
小計(3科目)	—	0	8	0	3	1	0	0	0	0		
実習科目 C 群	組込みシステム制御実習【※】 自動制御機械開発実習【※】 産業用ロボット実習【※】 小計(3科目)	2前	3		1							
		3前	3		1							
		3後	2		1							
小計(3科目)	—	0	8	0	2	1	0	0	0	0		
講義・演習科目	情報工学概論 デザインエンジニアリング概論 C言語基礎 エレクトロニクス工学 コンピュータシステム 情報数学 線形代数 解析学 組込みC、C++言語 回路・プリント基板設計 確率統計論 プログラミング概論 データベース基礎と応用 技術英語 ソフトウェアシステム開発 情報セキュリティ応用 小計(16科目)	1前	2			4						
		1前	3			1						
		1前	3									兼1
		1前	3									兼2
		1前	2			1						
		1後	2									兼1
		1後	2									兼1
		1後	2									兼1
		1後	3					1				
		1後	3			1						
		2前	2									兼1
		2前	2			1		1	1			
		2前	2			1						
		3前	2			1						
		3前	2			2		1				
		3前	2			1						
小計(16科目)	—	37	0	0	11	0	1	1	0	0	兼5	

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
職業専門科目	A 講義・演習科目 人工知能基礎 自然言語処理 人工知能数学 機械学習 深層学習 画像・音声認識 小計(6科目)	2前	2					1				
		2前	2			1						
		2前	2			1						
		2後	2			1						
		3前	2			1						
		2	2			1						
	—	0	11	0	4	0	0	1	0	0		
	B 講義・演習科目 デバイス・ネットワーク IoTデバイスプログラミングⅠ IoTデバイスプログラミングⅡ サーバ・ネットワーク IoTデバイスプログラミングⅢ 小計(5科目)	2後	2			1						
		2後	1			1						
		2後	1			1						
		3前	2			1						
		3前	2			1						
		—	0	7	0	3	0	0	0	0	0	
	C 講義・演習科目 力学 材料力学・材料工学 機械設計 ロボット機構 ロボット制御 小計(5科目)	1後	2			1						兼1
		2後	2									
		2後	2			1						
3前		2			1							
3前		2			1							
—		0	10	0	1	0	0	1	0	0	兼1	
群科講義 共通A・演習 Pythonプログラミング データ解析 小計(2科目)	1後	2						1				
	3前	2			1							
	—	0	3	0	0	1	0	1	0	0		
	群科講義 共通B・演習 制御工学基礎 センサ・アクチュエータ 小計(2科目)	2前	2			1						
2前		2				1						
—		0	4	0	1	1	0	0	0	0		
展開科目 企画・発想法 プロジェクトマネジメント 地域共創デザイン実習【※】 チームワークとリーダーシップ 知的財産権論 グローバル市場化戦略 企業経営論 持続可能な社会 ベンチャー起業経営 小計(9科目)		1前	2									兼1
	1後	2									兼1	
	2通	6			2	1					兼2	
	2後	2									兼1	
	3前	2									兼1	
	3後	2			1							
	3後	2									兼1	
	4前	2									兼1	
	4前	2									兼1	
	—	21	0	0	3	1	0	0	0	0	兼7	
科総目 卒業研究制作 小計(16科目)	4通	4			12							
	—	4			12	0	0	0	0	0		
合計(73科目)												
卒業要件及び履修方法												
基礎科目 20単位 職業専門科目 26単位 実習科目 8単位以上(A~C群の内、1つを選択) 講義・演習科目 36.5単位 展開科目 20.5単位 総合科目 4単位 以上、合計124単位以上を取得。 ※1 実習の選択必修科目で選択した科目群と、講義・演習科目で選択した科目群は同一でなくてはならない。 ※2 A~C群それぞれに、必ず単位を取得すべき科目として「コースコア科目」を設定する。コースコア科目については、履修要項などで別途定める。コースコア科目が未履修の場合、卒業要件を満たさない。												

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
職業専門科目	A 講義・演習科目 人工知能基礎 自然言語処理 人工知能数学 機械学習 深層学習 画像・音声認識 小計(6科目)	2前	2						1			
		2前	2			1						
		2前	2			1						
		2後	2			1						
		3前	2			1						
		2	2			1						
	—	0	11	0	4	0	0	1	0	0		
	B 講義・演習科目 デバイス・ネットワーク IoTデバイスプログラミングⅠ IoTデバイスプログラミングⅡ サーバ・ネットワーク IoTデバイスプログラミングⅢ 小計(5科目)	2後	2			1						
		2後	1			1						
		2後	1			1						
		3前	2			1						
		3前	2			1						
		—	0	7	0	3	0	0	0	0	0	
	C 講義・演習科目 力学 材料力学・材料工学 機械設計 ロボット機構 ロボット制御 小計(5科目)	1後	2			1						兼1
		2後	2									
		2後	2			1						
3前		2			1							
3前		2			1							
—		0	10	0	1	0	0	0	0	0	兼1	
群科講義 共通A・演習 Pythonプログラミング データ解析 小計(2科目)	1後	2							1			
	3前	2			1							
	—	0	3	0	0	1	0	1	0	0		
	群科講義 共通B・演習 制御工学基礎 センサ・アクチュエータ 小計(2科目)	2前	2			1						
2前		2				1						
—		0	4	0	0	1	1	0	0	0		
展開科目 企画・発想法 プロジェクトマネジメント 地域共創デザイン実習【※】 チームワークとリーダーシップ 知的財産権論 グローバル市場化戦略 企業経営論 持続可能な社会 ベンチャー起業経営 小計(9科目)		1前	2									兼1
	1後	2									兼1	
	2通	6			2	1					兼2	
	2後	2									兼1	
	3前	2									兼1	
	3後	2			1							
	3後	2									兼1	
	4前	2									兼1	
	4前	2									兼1	
	—	21	0	0	3	1	1	0	0	0	兼7	
科総目 卒業研究制作 小計(17科目)	4通	4			12							
	—	4			12	0	0	0	0	0		
合計(73科目)												
卒業要件及び履修方法												
基礎科目 20単位 職業専門科目 26単位 実習科目 8単位以上(A~C群の内、1つを選択) 講義・演習科目 36.5単位 展開科目 20.5単位 総合科目 4単位 以上、合計124単位以上を取得。 ※1 実習の選択必修科目で選択した科目群と、講義・演習科目で選択した科目群は同一でなくてはならない。 ※2 A~C群それぞれに、必ず単位を取得すべき科目として「コースコア科目」を設定する。コースコア科目については、履修要項などで別途定める。コースコア科目が未履修の場合、卒業要件を満たさない。												

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	記年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	インテグレーション グローバル コミュニケーション	英語コミュニケーション I a	1前	2					1			兼3
		英語コミュニケーション I b	1後	2					1			兼3
		英語コミュニケーション II a	2前	2					1			兼4
		英語コミュニケーション II b	2後	1					1			兼4
		英語コミュニケーション III a	3前	2					1			兼4
		英語コミュニケーション III b	3後	1					1			兼4
		英語コミュニケーション IV	4前	1					1			兼4
	小計(7科目)	—	11	0	0	0	0	1	0	0		兼6
	コミュニケーション	コミュニケーションツール	1後	1								兼1
		小計(1科目)	—	1	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	倫理	社会と倫理	3前	2								兼1
		小計(1科目)	—	2	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	基盤科目	比較文化論	2前	2			1					
		感性をはかる	1前	2			1					
		コミュニケーションと記号論	1後	2								兼1
		小計(3科目)	—	6	0	0	2	0	0	0	0	兼1
職業専門科目	実習科目	臨地実務実習Ⅰ【臨】	2通	5			2		3			
		臨地実務実習Ⅱ【臨】	3通	8			4		1			
		臨地実務実習Ⅲ【臨】	4通	8			2		2	1		
		ソリューション開発Ⅰ【※】	3後	2			2	1				
		ソリューション開発Ⅱ【※】	4前	4			1	2	1			
		小計(5科目)	—	26	0	0	9	2	3	1	0	0
	実習科目A群	人工知能システム開発Ⅰ【※】	2前	2			1					
		メディア情報処理実習【※】	2後	1			2					
		人工知能システム開発Ⅱ【※】	3前	3			2					
		人工知能応用【※】	3後	2			1			1		
	小計(4科目)	—	0	8	0	4	0	0	1	0	0	
	実習科目B群	IoTシステム開発Ⅰ【※】	2前	3			1	1				
		IoTシステム開発Ⅱ【※】	3前	3			2					
		IoTサービスデザイン【※】	3後	2			2					
		小計(3科目)	—	0	8	0	4	1	0	0	0	0
	実習科目C群	組み込みシステム制御実習【※】	2前	3			1					
		自動制御機械開発実習【※】	3前	3			1					
		産業用ロボット実習【※】	3後	2				1				
		小計(3科目)	—	0	8	0	2	1	0	0	0	0
	講義・演習科目	情報工学概論	1前	2			3					
デザインエンジニアリング概論		1前	3			1						
C言語基礎		1前	3								兼1	
エレクトロニクス工学		1後	3								兼2	
コンピュータシステム		1前	2			1						
情報数学		1後	2								兼1	
線形代数		1後	2								兼1	
解析学		1後	2								兼1	
組み込みC、C++言語		1後	3					1				
回路・プリント基板設計		1後	3			1						
確率統計論		2前	2								兼1	
プログラミング概論		2前	2			1		1	1			
データベース基礎と応用		2前	2			1						
技術英語		3前	2			1						
ソフトウェアシステム開発		3前	2			2		1				
情報セキュリティ応用		3前	2			1						
小計(16科目)	—	37	0	0	10	0	1	1	0		兼4	

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	記当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任										
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手											
職業専門科目	A 講義・演習科目	人工知能基礎	2前	2					1												
		自然言語処理	2前	2			1														
		人工知能数学	2前	2			1														
		機械学習	2後	2			1														
		深層学習	3前	2			1														
		画像・音声認識	3前	2			1														
		小計(6科目)	—	0	11	0	4	0	0	1	0	0									
	B 講義・演習科目	デバイス・ネットワーク	2後	2			1														
		IoTデバイスプログラミングⅠ	2後	1			1														
		IoTデバイスプログラミングⅡ	2後	1			1														
		サーバ・ネットワーク	3前	2			1														
		IoTデバイスプログラミングⅢ	3前	2			1														
			小計(5科目)	—	0	7	0	3	0	0	0	0	0								
	C 講義・演習科目	力学	1後	2			1														
		材料力学・材料工学	2後	2			2					兼1									
		機械設計	2後	2			1														
ロボット機構		3前	2			1															
ロボット制御		3前	2			1															
		小計(5科目)	—	0	10	0	1	0	0	0	0	兼1									
群科講義・演習科目共通A・演習B	Pythonプログラミング	1後	2					1													
	データ解析	3前	2				1														
		小計(2科目)	—	0	3	0	0	1	0	1	0	0									
群科講義・演習科目共通B・演習C	制御工学基礎	2前	2					1													
	センサ・アクチュエータ	2前	2					1													
		小計(2科目)	—	0	4	0	0	1	1	0	0	0									
展開科目	企画・発想法	1前	2								兼1										
	プロジェクトマネジメント	1後	2								兼1										
	地域共創デザイン実習【※】	2通	6			2	1	1			兼2										
	チームワークとリーダーシップ	2後	2								兼1										
	知的財産権論	3前	2								兼1										
	グローバル市場化戦略	3後	2			1															
	企業経営論	3後	2								兼1										
	持続可能な社会	4前	2								兼1										
	ベンチャー起業経営	4前	2								兼1										
		小計(9科目)	—	21	0	0	3	1	1	0	0	兼7									
科総目合	卒業研究制作	4通	4			12															
		小計(16科目)	—	4			12	0	0	0	0	0									
合計(73科目)												—	107	59	0	14	2	4	1	0	兼21
卒業要件及び履修方法																					
基礎科目 必修科目 20単位 職業専門科目 実習科目 必修科目 26単位 選択必修科目 8単位以上(A～C群の内、1つを選択) 講義・演習科目 必修科目 36.5単位 選択必修科目 9単位以上(A～C群の内、1つを選択) 展開科目 20.5単位 総合科目 4単位 以上、合計124単位以上を取得。 ※1 実習の選択必修科目で選択した科目群と、講義・演習科目で選択した科目群は同一でなくてはならない。 ※2 A～C群それぞれに、必ず単位を取得すべき科目として「コースコア科目」を設定する。コースコア科目については、履修要項などで別途定める。コースコア科目が未履修の場合、卒業要件を満たさない。																					

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任・兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなくなったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和元年度開設であれば平成30年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・「英語コミュニケーションIa」の専任教員等の配置を「講師1、兼4」から「講師1、兼3」に変更。
- ・「英語コミュニケーションIb」の専任教員等の配置を「講師1、兼4」から「講師1、兼3」に変更。
- ・担当教員逝去による教員差し替え対応のため、今年度のみ「比較文化論」の配当年次を「1前」から「2前」に変更し、専任教員の配置を「兼1」を削除、基礎科目の小計を「兼2」から「兼1」に変更。
- ・担当専任教員負担軽減のため専任教員を一名追加し、「臨地実務実習Ⅰ【臨】」の専任教員等の配置を「教授2、講師2」から「教授2、講師3」に変更。
- ・担当専任教員負担軽減のため専任教員を一名追加し、「ソリューション開発Ⅱ【※】」の専任教員の配置を「教授1、准教授2」から「教授1、准教授2、講師1」に変更し、実習科目の小計を「教授9、准教授2、講師2、助教1」から「教授9、准教授2、講師3、助教1」に変更。
- ・新型コロナウイルスの影響による開講スケジュールの後ろ倒しから、学生の授業過密の影響、及び、担任教員負担軽減のため、配当年次を「1前」から「1後」に変更し、「兼1」を「兼2」に変更。
- ・誤植のため、講義・演習科目C群の小計を「教授1、講師1、兼1」から「教授1、兼1」に変更。
- ・「制御工学基礎」の専任教員等の配置を「教授1」から「講師1」に変更し、講義・演習科目B・C群共通の小計を「教授1、准教授1」から「准教授1、講師1」に変更。なお、主要授業科目は『学科包括科目』に該当する「情報工学概論」および「デザインエンジニアリング概論」および「卒業研究制作」と「地域共創デザイン実習」であり、「制御工学基礎」はどれにも該当しないため、講師に変更で問題ない。
- ・担当専任教員負担軽減のため専任教員を一名追加し、「地域共創デザイン実習」の専任教員等の配置を「教授2、准教授1、兼2」から「教授2、准教授1、講師1、兼2」に変更し、展開科目の小計を「教授3、准教授1」から「教授3、准教授1、講師1」に変更。
- ・合計を「教授14、准教授2、講師3、助教1、兼21」から「教授14、准教授2、講師4、助教1、兼20」に変更。

【令和3年度】

- ・基礎科目・グローバルコミュニケーション科目の小計を「兼6」から「兼8」に変更。
- ・「制御工学基礎」の専任教員等に兼任教員を1名追加し、「教授1」から「教授1、兼1」に変更。
- ・専任教員辞任の為「臨地実務実習Ⅲ」の専任教員等の配置を「教授2、講師2、助教1」から「教授1、講師2、助教1」に変更。職業専門科目・実習科目の小計を「教授9」から「教授8」に変更。
- ・専任教員辞任の為「IoTサービスデザイン」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」に変更。職業専門科目・実習科目B群の小計を「教授4」から「教授3」に変更。
- ・担当専任教員負担軽減ため専任教員を一名追加し、「情報工学概論」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授4」に変更。職業専門科目・講義・演習科目の小計を「教授10」から「教授11」に変更
- ・専任教員辞任の為「サーバ・ネットワーク」の専任教員等の配置を「教授1」から空白に変更。職業専門科目・講義・演習科目B群の小計を「教授3」から「教授2」に変更
- ・専任教員辞任の為「卒業研究制作」の専任教員等の配置を「教授12」から「教授11」に変更。総合科目の小計を「教授12」から「教授11」に変更。
- ・誤植の為、総合科目小計（16科目）を総合科目の小計（1科目）に修正。
- ・合計を「兼21」から「兼23」に変更。

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
43 科目	30 科目	0 科目	73 科目	43 科目 [-]	30 科目 [-]	0 科目 [-]	73 科目 [-]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{73} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備 考
(1)	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	
校 地 等	校舎敷地	0 m ²	5,172 m ²	0 m ²	5,172 m ²	以下の大学、専修学校と 共用。 東京国際工科専門職大学 (収容定員: 800人) (基準8,000m ²)
	運動場用地	0 m ²	0 m ²	0 m ²	0 m ²	東京通信大学 (収容定員: 4,000人) (基準 - m ²) 国際ファッション専門職 大学 (収容定員: 478人) (基準: 4,780m ²)
	小 計	0 m ²	5,172 m ²	0 m ²	5,172 m ²	東京モード学園 1,880 1,845 (収容定員: 1,325名) (基準 - m ²)
	そ の 他	0 m ²	0 m ²	0 m ²	0 m ²	H A L 東京 1,900 (収容定員: 1,540人) (基準 - m ²)
	合 計	0 m ²	5,172 m ²	0 m ²	5,172 m ²	首都医校 2,357 2,277 (収容定員: 1,875人) (基準 - m ²)

	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	以下の大学、専修学校と 共用。 東京国際工科専門職大学 (専用：7,136㎡) (基準：9,553㎡) 東京通信大学 (専用：5,289㎡) (基準：12,440㎡) 国際ファッション専門職 大学 国際ファッション学部 ファッションクリエイショ ン学科、 ファッションビジネス学 科 (専用：2,309㎡) (基準：3,537㎡) 東京モード学園 6,149 (専用：5,523㎡) 4,235 4,148 (基準：3,673㎡) H A L 東京 6,608 (専用：6,226㎡) (基準：4,760㎡) 首都医校 17,889 (専用：18,998㎡) 5,016 4,776 (基準：5,790㎡) 39,541 39,214 基準合計：39,753㎡ 専修学校の定員変更、お よび校舎面積変更(2) 専修学校の定員変更及び 校舎面積変更(3)			
	7,136㎡	13,366㎡	41,139㎡	61,641㎡				
(2) 校 舎	(3,155㎡)	(15,032㎡)	(43,454㎡)	(61,641㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			
	7 室	9 室	3 室	3 室 (補助職員 0 人)	0 室 (補助職員 0 人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数				
	工科学部 情報工学科 デジタルエンタテインメント学科			38 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	図書は同居する学校と共有する。新規追加は電子書籍を主体とする。学生はポータルサイト経由で時間の制約なく個人のパソコン、スマートホン等で電子書籍をダウンロードし、閲覧が可能。 廃刊書籍の代替選定による納品遅延、導入図書等を再度見直し。および別大学の申請計画変更による該当大学に關係する書籍購入計画の遅れ。 (2) 教育環境の充実(3)
	工科学部	74,802 [4,492] 60,576 5,723 60,518 5,716 (65,774 [4,432])	25 206 [15] 181 24 (206 [15])	16 (15 [15]) 14 (15 [15])	818 768 803 (747)	8,655 (7,785)	0 (0)	
	計	74,802 [4,492] 60,576 5,723 60,518 5,716 (65,774 [4,432])	25 206 [15] 181 24 (206 [15])	16 (15 [15]) 14 (15 [15])	818 768 803 (747)	8,655 (7,785)	0 (0)	

(6) 図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	他の大学・専門学校と共有。					
	693.16 m ²	206	45,646						
(7) 体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
	0 m ²	トレーニングルーム 147.11m ²	-						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設年度	完成年度	区分	開設前年度	開設年度	完成年度	消費税増税による金額変更、廃刊書籍の代替選定による納品遅延、新型コロナウイルスの影響による納期遅れ(2)	
	経費の見積り	教員1人当り研究費等	250千円	250千円	図書購入費	8,051千円 10,000千円	2,214千円 1,110千円		1,110千円
		共同研究費等	1,800千円	1,800千円	設備購入費	508,594千円 1,011,515千円	469,914千円 117,841千円		0千円
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1740千円	1500千円	1560千円	162千円	—千円	—千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要		収益事業・手数料収入・雑収入等						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和3年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	東京国際工科専門職大学						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
工科学部	年	人	年次人	人		倍	倍				
情報工学科	4	120	-	480	情報工学士(専門職)	1.07	0.99	-	令和2年	東京都新宿区西新宿1-7-3	
デジタルエンタテインメント学科	4	80	-	320	デジタルエンタテインメント学士(専門職)	1.16	1.18	-	令和2年	東京都新宿区西新宿1-7-3	
大学全体	-	200	-	800	-	-	-	-	-	-	
大学の名称	東京通信大学						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	1	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
情報マネジメント学部	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
情報マネジメント学科	4	400	3年次200	2000	学士(情報マネジメント)	1.51	2.06	-	平成30	東京都新宿区西新宿1-7-3	
人間福祉学部											
人間福祉学科	4	400	3年次200	2000	学士(人間福祉)	0.94	0.82	-	平成30	東京都新宿区西新宿1-7-3	
大学全体	-	800	3年次400	4000	-	-	-	-	-	-	
大学の名称	国際ファッション専門職大学						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
国際ファッション学部	年	人	年次人	人		倍	倍				
ファッションクリエイション学科	4	80	-	320	ファッションクリエイション学士(専門職)	1.03	1.05	-	平成31	東京都新宿区西新宿1-7-3	
ファッションビジネス学科	4	38	2年次2	158	ファッションビジネス学士(専門職)	1.10	1.15	-	平成31	東京都新宿区西新宿1-7-3	
大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科	4	38	2年次2	158	ファッションクリエイション・ビジネス学士(専門職)	1.13	1.13	-	平成31	大阪府大阪市北区梅田3-3-2	
名古屋ファッションクリエイション・ビジネス学科	4	38	2年次2	158	ファッションクリエイション・ビジネス学士(専門職)	1.01	0.92	-	平成31	愛知県名古屋市中村区名駅4-27-1	
大学全体	-	194	2年次6	794	-	-	-	-	-	-	

大学の名称	大阪国際工科専門職大学						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍				
工科学部											
情報工学科	4	120	-	480	情報工学士(専門職)	0.92	0.92	-	令和3年	大阪府大阪市北区梅田3-3-1	
デジタルエンタテインメント学科	4	40	-	160	デジタルエンタテインメント学士(専門職)	1.12	1.12	-	令和3年	大阪府大阪市北区梅田3-3-1	
大学全体	-	160	-	640	-	-	-	-	-	-	
大学の名称	名古屋国際工科専門職大学						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍				
工科学部											
情報工学科	4	80	-	320	情報工学士(専門職)	1.15	1.15	-	令和3年	愛知県名古屋市 中村区名駅4-27-1	
デジタルエンタテインメント学科	4	40	-	160	デジタルエンタテインメント学士(専門職)	1.15	1.15	-	令和3年	愛知県名古屋市 中村区名駅4-27-1	
大学全体	-	120	-	480	-	-	-	-	-	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。なお、調査対象の学科等が設置されている大学から順に記載してください
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和3年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<工科学部 情報工学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授 (副学長) (学部長)	富山 哲男 <令和2年4月> 工学博士
		情報工学概論 デザインエンジニアリング概論 臨地実務実習Ⅱ 卒業研究制作
専	教授	大関 和夫 <令和2年4月> 博士(工学)
		人工知能システム開発Ⅰ 地域共創デザイン実習 機械学習 卒業研究制作
専	教授	遠山 茂樹 <令和2年4月> 工学博士
		力学 制御工学基礎 機械設計 ロボット機構 ロボット制御 卒業研究制作
専	教授	駒井 章治 <令和2年4月> 博士(バイオサイエンス)
		感性をはかる 地域共創デザイン実習 ソフトウェアシステム開発 臨地実務実習Ⅱ 卒業研究制作
専	准教授	西田 麻美 <令和2年4月> 博士(工学)
		センサ・アクチュエータ 地域共創デザイン実習 産業用ロボット実習 ソリューション開発Ⅱ
専	講師	波多江 茂樹 <令和2年4月> 博士(工学)
		臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ
専	講師	菅谷 孝義 <令和2年4月> Master of Arts in New Literatures in English (イギリス)
		英語コミュニケーションⅠa 英語コミュニケーションⅠb 英語コミュニケーションⅡa 英語コミュニケーションⅡb 英語コミュニケーションⅢa 英語コミュニケーションⅢb 英語コミュニケーションⅣ
専	講師	水上 憲明 <令和2年4月> 博士(工学)
		制御工学基礎 臨地実務実習Ⅰ 地域共創デザイン実習 ソリューション開発Ⅱ

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授 (副学長) (学部長)	富山 哲男 <令和2年4月> 工学博士
		情報工学概論 デザインエンジニアリング概論 臨地実務実習Ⅱ 卒業研究制作
専	教授	大関 和夫 <令和2年4月> 博士(工学)
		人工知能システム開発Ⅰ 地域共創デザイン実習 機械学習 卒業研究制作
専	教授	遠山 茂樹 <令和2年4月> 工学博士
		力学 機械設計 ロボット機構 ロボット制御 卒業研究制作
専	教授	駒井 章治 <令和2年4月> 博士(バイオサイエンス)
		感性をはかる 地域共創デザイン実習 ソフトウェアシステム開発 臨地実務実習Ⅱ 卒業研究制作
専	准教授	西田 麻美 <令和2年4月> 博士(工学)
		センサ・アクチュエータ 地域共創デザイン実習 産業用ロボット実習 ソリューション開発Ⅱ
専	講師	波多江 茂樹 <令和2年4月> 博士(工学)
		臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ
専	講師	菅谷 孝義 <令和2年4月> Master of Arts in New Literatures in English (イギリス)
		英語コミュニケーションⅠa 英語コミュニケーションⅠb 英語コミュニケーションⅡa 英語コミュニケーションⅡb 英語コミュニケーションⅢa 英語コミュニケーションⅢb 英語コミュニケーションⅣ
専	講師	水上 憲明 <令和2年4月> 博士(工学)
		制御工学基礎 臨地実務実習Ⅰ 地域共創デザイン実習 ソリューション開発Ⅱ

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授 (副学長) (学部長)	富山 哲男 <令和2年4月> 工学博士
		情報工学概論 デザインエンジニアリング概論 臨地実務実習Ⅱ 卒業研究制作
専	教授	大関 和夫 <令和2年4月> 博士(工学)
		人工知能システム開発Ⅰ 地域共創デザイン実習 機械学習 卒業研究制作
専	教授	遠山 茂樹 <令和2年4月> 工学博士
		情報工学概論 力学 機械設計 ロボット機構 ロボット制御 卒業研究制作
専	教授	駒井 章治 <令和2年4月> 博士(バイオサイエンス)
		感性をはかる 地域共創デザイン実習 ソフトウェアシステム開発 臨地実務実習Ⅱ 卒業研究制作
専	准教授	西田 麻美 <令和2年4月> 博士(工学)
		センサ・アクチュエータ 地域共創デザイン実習 産業用ロボット実習 ソリューション開発Ⅱ
専	講師	波多江 茂樹 <令和2年4月> 博士(工学)
		臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅲ
専	講師	菅谷 孝義 <令和2年4月> Master of Arts in New Literatures in English (イギリス)
		英語コミュニケーションⅠa 英語コミュニケーションⅠb 英語コミュニケーションⅡa 英語コミュニケーションⅡb 英語コミュニケーションⅢa 英語コミュニケーションⅢb 英語コミュニケーションⅣ
専	講師	水上 憲明 <令和2年4月> 博士(工学)
		制御工学基礎 臨地実務実習Ⅰ 地域共創デザイン実習 ソリューション開発Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	齋藤 亜希 <令和2年4月> 修士(科学)
		Pythonプログラミング プログラミング概論 人工知能基礎 人工知能応用 臨地実務実習Ⅲ
実専	講師	荒金 匡徳 <令和2年4月> 短期大学 卒
		組み込みC、C++言語 プログラミング概論 臨地実務実習Ⅰ ソフトウェアシステム開発 臨地実務実習Ⅲ
実(研)	教授	鈴木 雅実 <令和2年4月> 博士(工学)
		データベース基礎と応用 自然言語処理 メディア情報処理実習 技術英語 ソリューション開発Ⅰ 卒業研究制作
実(研)	教授	上條 浩一 <令和2年4月> 博士(工学)
		情報工学概論 メディア情報処理実習 画像・音声認識 人工知能システム開発Ⅱ 人工知能応用 卒業研究制作
実(研)	教授 (学科長)	藤井 竜也 <令和2年4月> 工学博士
		情報工学概論 IoTシステム開発Ⅰ 臨地実務実習Ⅰ IoTシステム開発Ⅱ 卒業研究制作
実(研)	教授	三宅 茂樹 <令和2年4月> 博士(科学)
		プログラミング概論 人工知能数学 臨地実務実習Ⅰ 人工知能システム開発Ⅱ 深層学習 卒業研究制作
実(研)	教授	辻野 雅之 <令和2年4月> 修士(工学) 国際会計修士(専門職)
		コンピュータシステム IoTデバイスプログラミングⅠ IoTシステム開発Ⅱ グローバル市場化戦略 卒業研究制作
実(研)	教授	菊間 一宏 <令和2年4月> 修士(理学)
		サーバ・ネットワーク IoTサービスデザイン 臨地実務実習Ⅲ 卒業研究制作
実(研)	教授	爰川 知宏 <令和2年4月> 博士(工学)
		情報セキュリティ応用 臨地実務実習Ⅱ IoTサービスデザイン ソリューション開発Ⅱ 卒業研究制作

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	齋藤 亜希 <令和2年4月> 修士(科学)
		Pythonプログラミング プログラミング概論 人工知能基礎 人工知能応用 臨地実務実習Ⅲ
実専	講師	荒金 匡徳 <令和2年4月> 短期大学 卒
		組み込みC、C++言語 プログラミング概論 臨地実務実習Ⅰ ソフトウェアシステム開発 臨地実務実習Ⅲ
実(研)	教授	鈴木 雅実 <令和2年4月> 博士(工学)
		比較文化論 データベース基礎と応用 自然言語処理 メディア情報処理実習 技術英語 ソリューション開発Ⅰ 卒業研究制作
実(研)	教授	上條 浩一 <令和2年4月> 博士(工学)
		情報工学概論 メディア情報処理実習 画像・音声認識 人工知能システム開発Ⅱ 人工知能応用 卒業研究制作
実(研)	教授 (学科長)	藤井 竜也 <令和2年4月> 工学博士
		情報工学概論 IoTシステム開発Ⅰ 臨地実務実習Ⅰ IoTシステム開発Ⅱ 卒業研究制作
実(研)	教授	三宅 茂樹 <令和2年4月> 博士(科学)
		プログラミング概論 人工知能数学 臨地実務実習Ⅰ 人工知能システム開発Ⅱ 深層学習 卒業研究制作
実(研)	教授	辻野 雅之 <令和2年4月> 修士(工学) 国際会計修士(専門職)
		コンピュータシステム IoTデバイスプログラミングⅠ IoTシステム開発Ⅱ グローバル市場化戦略 卒業研究制作
実(研)	教授	菊間 一宏 <令和2年4月> 修士(理学)
		サーバ・ネットワーク IoTサービスデザイン 臨地実務実習Ⅲ 卒業研究制作
実(研)	教授	爰川 知宏 <令和2年4月> 博士(工学)
		情報セキュリティ応用 臨地実務実習Ⅱ IoTサービスデザイン ソリューション開発Ⅱ 卒業研究制作

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	齋藤 亜希 <令和2年4月> 修士(科学)
		Pythonプログラミング プログラミング概論 人工知能基礎 人工知能応用 臨地実務実習Ⅲ
実専	講師	荒金 匡徳 <令和2年4月> 短期大学 卒
		組み込みC、C++言語 プログラミング概論 臨地実務実習Ⅰ ソフトウェアシステム開発 臨地実務実習Ⅲ
実(研)	教授	鈴木 雅実 <令和2年4月> 博士(工学)
		比較文化論 データベース基礎と応用 自然言語処理 メディア情報処理実習 技術英語 ソリューション開発Ⅰ 卒業研究制作
実(研)	教授	上條 浩一 <令和2年4月> 博士(工学)
		情報工学概論 メディア情報処理実習 画像・音声認識 人工知能システム開発Ⅱ 人工知能応用 卒業研究制作
実(研)	教授 (学科長)	藤井 竜也 <令和2年4月> 工学博士
		情報工学概論 IoTシステム開発Ⅰ 臨地実務実習Ⅰ IoTシステム開発Ⅱ 卒業研究制作
実(研)	教授	三宅 茂樹 <令和2年4月> 博士(科学)
		プログラミング概論 人工知能数学 臨地実務実習Ⅰ 人工知能システム開発Ⅱ 深層学習 卒業研究制作
実(研)	教授	辻野 雅之 <令和2年4月> 修士(工学) 国際会計修士(専門職)
		コンピュータシステム IoTデバイスプログラミングⅠ IoTシステム開発Ⅱ グローバル市場化戦略 卒業研究制作
実(研)	教授	菊間 一宏 <令和2年4月> 修士(理学)
		サーバ・ネットワーク IoTサービスデザイン 臨地実務実習Ⅲ 卒業研究制作
実(研)	教授	爰川 知宏 <令和2年4月> 博士(工学)
		情報セキュリティ応用 臨地実務実習Ⅱ IoTサービスデザイン ソリューション開発Ⅱ 卒業研究制作

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
実(研)	教授	武本 充治 <令和2年4月> 博士(工学)
		デバイス・ネットワーク IoTデバイスプログラミングII ソフトウェアシステム開発 IoTデバイスプログラミングIII 卒業研究制作
実(研)	准教授	山本 裕 <令和2年4月> 博士(工学)
		IoTシステム開発I データ解析 ソリューション開発I ソリューション開発II
実み	教授	小柳 栄次 <令和2年4月> 博士(工学)
		自動制御機械開発実習 臨地実務実習II ソリューション開発I
実み	教授	広田 和洋 <令和2年4月> 工学博士
		回路・プリント基板設計 組込みシステム制御実習 臨地実務実習III
兼任	教授	中谷 日出 <令和2年4月> 芸術学修士
		コミュニケーションと記号論 地域共創デザイン実習
兼任	准教授	蛭田 健司 <令和2年4月> 学士(理学)
		地域共創デザイン実習
兼任	講師	門田 裕次 <令和2年4月> M. S. Ed. in TESOL (アメリカ)
		英語コミュニケーションIa 英語コミュニケーションIb 英語コミュニケーションIIa 英語コミュニケーションIIb 英語コミュニケーションIIIa 英語コミュニケーションIIIb 英語コミュニケーションIV
兼任	講師	須賀 佳容子 <令和2年4月> Bachelor of Arts i Psychology (アメリカ)
		英語コミュニケーションIa 英語コミュニケーションIb 英語コミュニケーションIIa 英語コミュニケーションIIb
兼任	講師	境 真良 <令和4年4月> 法学士
		知的財産権論
		赤染 陽子 <令和4年4月> 博士(理学)
		知的財産権論

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
実(研)	教授	武本 充治 <令和2年4月> 博士(工学)
		デバイス・ネットワーク IoTデバイスプログラミングII ソフトウェアシステム開発 IoTデバイスプログラミングIII 卒業研究制作
実(研)	准教授	山本 裕 <令和2年4月> 博士(工学)
		IoTシステム開発I データ解析 ソリューション開発I ソリューション開発II
実み	教授	小柳 栄次 <令和2年4月> 博士(工学)
		自動制御機械開発実習 臨地実務実習II ソリューション開発I
実み	教授	広田 和洋 <令和2年4月> 工学博士
		回路・プリント基板設計 組込みシステム制御実習 臨地実務実習III
兼任	教授	中谷 日出 <令和2年4月> 芸術学修士
		コミュニケーションと記号論 地域共創デザイン実習
兼任	准教授	蛭田 健司 <令和2年4月> 学士(理学)
		地域共創デザイン実習
兼任	講師	門田 裕次 <令和2年4月> M. S. Ed. in TESOL (アメリカ)
		英語コミュニケーションIa 英語コミュニケーションIb 英語コミュニケーションIIa 英語コミュニケーションIIb 英語コミュニケーションIIIa 英語コミュニケーションIIIb 英語コミュニケーションIV
兼任	講師	須賀 佳容子 <令和2年4月> Bachelor of Arts i Psychology (アメリカ)
		英語コミュニケーションIa 英語コミュニケーションIb 英語コミュニケーションIIa 英語コミュニケーションIIb
兼任	講師	境 真良 <令和4年4月> 法学士
		知的財産権論

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
実(研)	教授	武本 充治 <令和2年4月> 博士(工学)
		デバイス・ネットワーク IoTデバイスプログラミングII ソフトウェアシステム開発 IoTデバイスプログラミングIII 卒業研究制作
実(研)	准教授	山本 裕 <令和2年4月> 博士(工学)
		IoTシステム開発I データ解析 ソリューション開発I ソリューション開発II
実み	教授	小柳 栄次 <令和2年4月> 博士(工学)
		自動制御機械開発実習 臨地実務実習II ソリューション開発I
実み	教授	広田 和洋 <令和2年4月> 工学博士
		回路・プリント基板設計 組込みシステム制御実習 臨地実務実習III
兼任	教授	中谷 日出 <令和2年4月> 芸術学修士
		コミュニケーションと記号論 地域共創デザイン実習
兼任	准教授	蛭田 健司 <令和2年4月> 学士(理学)
		地域共創デザイン実習
兼任	講師	門田 裕次 <令和2年4月> M. S. Ed. in TESOL (アメリカ)
		英語コミュニケーションIa 英語コミュニケーションIb 英語コミュニケーションIIa 英語コミュニケーションIIb 英語コミュニケーションIIIa 英語コミュニケーションIIIb 英語コミュニケーションIV
兼任	講師	須賀 佳容子 <令和2年4月> Bachelor of Arts i Psychology (アメリカ)
		英語コミュニケーションIIa 英語コミュニケーションIIb
兼任	講師	境 真良 <令和4年4月> 法学士
兼任	講師	赤染 陽子 <令和4年4月> 博士(理学)
		知的財産権論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	片方 恵子 ＜令和4年4月＞ 博士(システムデザイン・マネジメント学)
		社会と倫理
兼任	講師	本西 勝則 ＜令和4年4月＞ M.S. in Industrial Administration (アメリカ)
		企業経営論 ベンチャー起業経営
兼任	講師	蔵原 大 ＜令和2年4月＞ 人間科学修士 ※
		比較文化論
兼任	講師	川崎 敏治 ＜令和2年4月＞ 理学修士
		C言語基礎 情報数学 線形代数
兼任	講師	相磯 義宏 ＜令和2年4月＞ 学士(工学)
		エレクトロニクス工学
兼任	講師	八木 伸行 ＜令和2年10月＞ 博士(工学)
		エレクトロニクス工学
兼任	講師	吉野 純一 ＜令和2年10月＞ 博士(工学)
		エレクトロニクス工学
兼任	講師	長岐 滋 ＜令和3年4月＞ 工学博士
		材料力学・材料工学
兼任	講師	石田 尚人 ＜令和2年4月＞ 芸術工学士
		企画・発想法 チームワークとリーダーシップ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	片方 恵子 ＜令和4年4月＞ 博士(システムデザイン・マネジメント学)
		社会と倫理
兼任	講師	本西 勝則 ＜令和4年4月＞ M.S. in Industrial Administration (アメリカ)
		企業経営論 ベンチャー起業経営
兼任	講師	蔵原 大 ＜令和2年4月＞ 人間科学修士 ※
		比較文化論
兼任	講師	川崎 敏治 ＜令和2年4月＞ 理学修士
		C言語基礎 情報数学 線形代数
兼任	講師	八木 伸行 ＜令和2年10月＞ 博士(工学)
		エレクトロニクス工学
兼任	講師	吉野 純一 ＜令和2年10月＞ 博士(工学)
		エレクトロニクス工学
兼任	講師	長岐 滋 ＜令和3年4月＞ 工学博士
		材料力学・材料工学
兼任	講師	石田 尚人 ＜令和2年4月＞ 芸術工学士
		企画・発想法 チームワークとリーダーシップ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	片方 恵子 ＜令和4年4月＞ 博士(システムデザイン・マネジメント学)
		社会と倫理
兼任	講師	本西 勝則 ＜令和4年4月＞ M.S. in Industrial Administration (アメリカ)
		企業経営論 ベンチャー起業経営
兼任	講師	蔵原 大 ＜令和2年4月＞ 人間科学修士 ※
		比較文化論
兼任	講師	川崎 敏治 ＜令和2年4月＞ 理学修士
		C言語基礎 情報数学 線形代数
兼任	講師	相磯 義宏 ＜令和2年4月＞ 学士(工学)
		エレクトロニクス工学
兼任	講師	八木 伸行 ＜令和2年10月＞ 博士(工学)
		エレクトロニクス工学
兼任	講師	吉野 純一 ＜令和2年10月＞ 博士(工学)
		エレクトロニクス工学
兼任	講師	長岐 滋 ＜令和3年4月＞ 工学博士
		材料力学・材料工学
兼任	講師	石田 尚人 ＜令和2年4月＞ 芸術工学士
		企画・発想法 チームワークとリーダーシップ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	十返 文子 ＜令和2年4月＞ 情報システム学修士(専門職)
		プロジェクトマネジメント
兼任	講師	大守 隆 ＜令和5年4月＞ D.Phil in Economics (イギリス)
		持続可能な社会
兼任	講師	藤木 文彦 ＜令和2年4月＞ 工学修士
		解析学
兼任	講師	村上 諭 ＜令和2年4月＞ 専門学校 卒
		コミュニケーションツール
兼任	講師	嘉村 友作 ＜令和2年4月＞ 修士(理学)
		確率統計論
兼任	講師	福島 千恵子 ＜令和2年4月＞ 教養学士
		英語コミュニケーションⅠa 英語コミュニケーションⅠb 英語コミュニケーションⅡa 英語コミュニケーションⅡb
兼任	講師	吉野 瑞男 ＜令和2年4月＞ 修士(文学)
		英語コミュニケーションⅠa 英語コミュニケーションⅠb 英語コミュニケーションⅡa 英語コミュニケーションⅡb 英語コミュニケーションⅢa 英語コミュニケーションⅢb 英語コミュニケーションⅣ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	十返 文子 ＜令和2年4月＞ 情報システム学修士(専門職)
		プロジェクトマネジメント
兼任	講師	大守 隆 ＜令和5年4月＞ D.Phil in Economics (イギリス)
		持続可能な社会
兼任	講師	藤木 文彦 ＜令和2年4月＞ 工学修士
		解析学
兼任	講師	名和田 竜 ＜令和2年4月＞ 専門学校 卒
		コミュニケーションツール
兼任	講師	嘉村 友作 ＜令和2年4月＞ 修士(理学)
		確率統計論
兼任	講師	福島 千恵子 ＜令和3年4月＞ 教養学士
		英語コミュニケーションⅡa 英語コミュニケーションⅡb
兼任	講師	吉野 瑞男 ＜令和2年4月＞ 修士(文学)
		英語コミュニケーションⅡa 英語コミュニケーションⅡb 英語コミュニケーションⅢa 英語コミュニケーションⅢb 英語コミュニケーションⅣ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	山戸 昭三 ＜令和3年10月＞ 博士(情報科学)
		プロジェクトマネジメント
兼任	講師	大守 隆 ＜令和3年4月＞ D.Phil in Economics (イギリス)
		持続可能な社会 英語コミュニケーションⅡa 英語コミュニケーションⅡb
兼任	講師	藤木 文彦 ＜令和2年4月＞ 工学修士
		解析学
兼任	講師	名和田 竜 ＜令和2年4月＞ 専門学校 卒
		コミュニケーションツール
兼任	講師	嘉村 友作 ＜令和2年4月＞ 修士(理学)
		確率統計論
兼任	講師	福島 千恵子 ＜令和3年4月＞ 教養学士
		英語コミュニケーションⅠa 英語コミュニケーションⅠb
兼任	講師	吉野 瑞男 ＜令和4年4月＞ 修士(文学)
		英語コミュニケーションⅢa 英語コミュニケーションⅢb 英語コミュニケーションⅣ
兼任	講師	Jason Kushnir ＜令和3年4月＞ Msc in TESOL (イギリス)
		英語コミュニケーションⅡa 英語コミュニケーションⅡb

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	神保 充美 ＜令和4年4月＞ 工学修士	兼任	講師	神保 充美 ＜令和4年4月＞ 工学修士	兼任	講師	神保 充美 ＜令和4年4月＞ 工学修士
		英語コミュニケーションⅢa 英語コミュニケーションⅢb 英語コミュニケーションⅣ			英語コミュニケーションⅢa 英語コミュニケーションⅢb 英語コミュニケーションⅣ			英語コミュニケーションⅢa 英語コミュニケーションⅢb 英語コミュニケーションⅣ
兼任	講師	裏 哲求 ＜令和4年4月＞ 修士(言語学)						
		英語コミュニケーションⅢa 英語コミュニケーションⅢb 英語コミュニケーションⅣ						
			兼任	講師	Maynard Benjamin Robert ＜令和2年4月＞ Master of Applied Linguistics & TESOL (オーストラリア)			
					英語コミュニケーションⅠa 英語コミュニケーションⅠb 英語コミュニケーションⅢa 英語コミュニケーションⅢb 英語コミュニケーションⅣ			
			兼任	講師				Ferghal McTaggart ＜令和3年4月＞ M.A in English Literature (イギリス)
					英語コミュニケーションⅠa 英語コミュニケーションⅠb 英語コミュニケーションⅢa 英語コミュニケーションⅢb 英語コミュニケーションⅣ			

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、実(実)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・講師（水上憲明）4科目（制御工学基礎、臨地実務実習Ⅰ、地域共創デザイン実習、ソリューション開発Ⅱ）就任。令和元年12月教員審査済み。
- ・兼任教員（蔵原大）逝去したため就任不可能（鈴木雅美、令和2年6月教員審査済）。
- ・兼任教員（村上諭）一身上の都合のため就任辞退（名和田章）。
- ・兼任教員（藪哲求）一身上の都合のため就任辞退（メイナード・ベンジャミン・ロバート）。
- ・兼任教員（福島千恵子）一身上の都合のため科目担当を1年延期（メイナード・ベンジャミン・ロバート）。
- ・兼任教員（吉野瑞男）一身上の都合のため科目担当を1年延期（門田裕次）。
- ・兼任教員（相磯義宏）一身上の都合のため就任辞退（八木伸行、吉野純一）。

【令和3年度】

- ・科目の指導強化のため、教授（遠山茂樹）1科目（情報工学概論）を追加。令和3年2月AC教員審査済み。
- ・教授（菊間一宏）一身上の都合により辞任（未就任）。
- ・兼任教員（須賀佳容子）負担軽減のため2科目（英語コミュニケーションⅠa、英語コミュニケーションⅠb）を削除。
- ・兼任教員（境真良）一身上の都合のため辞任（赤染陽子）。
- ・兼任教員（大野はな恵）就任。
- ・兼任教員（十返文子）一身上の都合のため辞任（山戸昭三）。
- ・兼任教員（福島千恵子）一身上の都合のため2科目（英語コミュニケーションⅡa、英語コミュニケーションⅡb）担当を1年延期し、兼任教員（大守隆）2年前倒しにて就任。
- ・兼任教員（吉野瑞男）一身上の都合のため科目担当を1年延期（ジェyson・クシュニア）。
- ・兼任教員（メイナード・ベンジャミン・ロバート）一身上の都合のため辞任（ファーガル・マクタガット）。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和元年度開設であれば平成30年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要実務家教員数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要な研究業績を有する実務家教員数
10 名	5 名	4 名	2 名

(注) ・ 専門職大学設置基準、専門職短期大学設置基準により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【専門職大学等】

設置時の計画						現在(報告時)の状況					
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')
14	2	3	1	20	1	13	2	4	1	20	1
(14)	(2)	(4)	(1)	(21)	(1)						
専任教員数(専)	専任教員数(実専)	専任教員数(実(研))				専任教員数(専)	専任教員数(実専)	専任教員数(実(研))			
8	3	9				9	3	8			
(9)	(3)	(9)				(9)	(3)	(8)			
現在(報告時)の完成年度時の状況						現在(報告時)の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')
13	2	4	1	20	1	13	2	4	1	20	1
[Δ1]	[0]	[1]	[0]	[0]	[0]	[Δ1]	[0]	[1]	[0]	[0]	[0]
専任教員数(専)	専任教員数(実専)	専任教員数(実(研))				専任教員数(専)	専任教員数(実専)	専任教員数(実(研))			
9	3	8				9	3	8			
[1]	[0]	[Δ1]				[1]	[0]	[Δ1]			

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在(報告時)の状況」には、報告年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。
 ・ 「現在(報告時)の完成年度時の状況」には、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、教員審査を要済済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：Δ1)
 ・ 「現在(報告時)の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：Δ1)
 ・ 「実専」は実務家教員、「実(研)」は研究能力を併せ有する実務家教員を計上してください。
 なお、みなし専任教員(実み)がいる場合は、必要に応じて各項目の教員数に計上してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢(歳)	報告時(上記(B))の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時(上記(C))の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	5 名	7 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{20}{20} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在(報告時)の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{5}{20} = \boxed{25} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{1}{1} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
		該当なし								
合計 (D)						後任補充状況の集計 (E)				
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
	教授	菊間 一宏	R3.2	選択	サーバ・ネットワーク	③	R3.2 一身上の都合のため就任辞退 (R3)			
				選択	IoTサービスデザイン	③				
				必修	臨地実務実習Ⅲ	①				
				必修	卒業研究制作	①				
合計 (F)						後任補充状況の集計 (G)				
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
1	人	必修	2	科目	必修	2	科目	必修	0	科目
		選択	2	科目	選択	0	科目	選択	2	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	4	科目	計	2	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記 (3) -① ・ (3) -② の合計

合計 (D) + (F)					後任補充状況の集計 (E) + (G)					
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
1	人	必修	2	科目	必修	2	科目	必修	0	科目
		選択	2	科目	選択	0	科目	選択	2	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	4	科目	計	2	科目	計	0	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{1}{20} = 5\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 令和2年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

1 人

- (注) ・ (3) -①、(3) -②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) 一⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし							
合計				後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<ul style="list-style-type: none"> ・ 1名の教員辞任については、教員の諸事情によるものとしてやむを得ないと大学側で判断した。 ・ 交代の専任教員確保については、申請書に記載したとおり「公募により広く適任者を求め、科目に適した教員を公正な審査にて採用する」に準じ、本学の採用ホームページだけではなく民間事業者も利用した公募を開始している。 ・ 当該専任教員は4つの科目を担当しており、その後任について、2つの必修科目については既就任の専任教授、加えて、准教授・講師の複数名にて後任確保済みである。選択科目については、現時点で後任が未定であるが、開講まで大凡1年ほどの期間があるため、開講までに適切に教員審査に必要な期間も鑑みて補充の予定である。 ・ 当該教員が担当する4科目全て、3年次もしくは4年次に配当されている。よって、開講前の授業であるため、学生の履修に影響はない(3)。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
<p>認可時 (令和2年)</p>	<p>各コースの教育課程に選択必修の科目が設定されたが、3年次に各コースのコア科目(必修科目)が配置されていることから、学生が計画的・効果的にコースコア科目を履修できるよう、1、2年次において適切に履修指導すること。他方で、学生の科目の選択の余地が少なくなっていることから、学生が主体的に履修科目を選択することができるよう、例えば、他の学科やコースの基礎的な科目を履修できるようにすることなどを通じて、学生の多様な学びを確保するよう努めること。また、その考え方については、カリキュラム・ポリシーにおいて明示し、学生に対し明らかにすること。</p>	<p>・3年次の各コースコア科目が滞りなく履修できるように、開学初のオリエンテーション(遠隔)にて教育課程の概要について解説を行った。 特に、当該科目(3年次のコースコア科目)は実習科目であるため、実習科目についてフォーカスした解説も合わせて行った。(2、3) ・選択科目は配属されるコースに起因するが、配属の決定は2年次であるため、1年次の選択科目については現時点で希望するコースによらず、基本的に修得するようにアナウンスをした。(2、3) ・カリキュラム・ポリシーについて、以下の文章を追加した。加えて、修正済みカリキュラム・ポリシーを大学HP等に反映し学生のみならず、入学検討者なども含め情報を明らかにした。(2)</p> <p>工科学部カリキュラム・ポリシー ***【加筆部分抜粋】*** ・職業専門科目においては、専門分化された課程での学びに取り組むために、2年次進級時に必ず1つのコースに所属する。 ① 学生は基本的に所属するコースに呼応した選択科目を修得することを推奨する。 ② 選択科目の内、コースコア科目(選択・必修科目)を配する。所属するコースコア科目を修得しないと卒業できない。 ③ 学生の多様な学びを確保するために他学科や他コースの選択科目の修得も可能である。ただし、②に該当する学生の履修登録が優先となる。また、他学科の授業は自由科目(卒業要件に係らない科目)となる。 ④ 1年次に配されている選択科目については、各コースの基礎的な科目のため、コース定員によらずその学科に所属する全ての学生が受講できる。 ***</p> <p>また、カリキュラム・ポリシーの修正については、現在認可申請中である大阪・名古屋国際工科専門職大学の審査意見にも配慮し、以下についても合わせて加筆した。 ***【加筆部分抜粋】*** ・入学時の学修動機を深化させ、かつ、学修の最終形と職業専門科目との関連を理解するために、本学では『学科包括科目』と呼ぶ科目を1年前期に設ける。 共通：「情報工学概論」、「デザインエンジニアリング概論」 ***</p> <p>修正済みのカリキュラムポリシーの全文は別添する(②-1工科学部カリキュラムポリシー、②-2情報工学科カリキュラムポリシー、②-3デジタルエンタテインメント学科カリキュラムポリシー)。</p>	<p>履行済</p>

区分	附帯事項等	履行状況	今後の実施計画
認可時 (令和2年)	<p>設置の趣旨・目的等が生かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、学術の中心として広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究するという大学の目的、さらに専門性が求められる職業を担うための実践的かつ応用的な能力を展開するという専門職大学の目的に照らし、開設時から充実した教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。</p>	<p>1. 円滑に開学を迎えることを目的として、開学前から教員就任予定者に対して、大学開学に向けた準備状況について情報共有する場として教員全体集会を複数回開催した。(元、2)</p> <p>【実施内容】 第一回(11/28) : 学長及び専任教員全員参加による顔合わせ、各自の自己紹介、FD活動の案内等 第二回(1/23) : 開学までの準備事項についての説明(担任制、講義、LMS等)、FD活動の案内等 第三回(3/25) : 開学直前の連絡(新型コロナウイルスによる授業開始の後ろ倒し等) ※3月の活動については、昨今の情勢からオンライン開催を適宜導入した。</p> <p>2. 開学前より、職業を担うための実践的かつ応用的な能力を展開するという専門職大学の目的を達成するために、本学に設置したコースに呼応するワーキンググループの活動を実施した。(元、2)</p> <p>【実施内容】 ・AIコース会(2/13, 3/23) ・IoTコース会(2/7, 2/14, 2/19, 3/6, 3/18) ・ロボットコース会(2/27, 3/9, 3/25) ・ゲームコース会(2/14, 2/25) ・CGコース会(2/6) なお、CGコース会が一回にとどまっているのは、昨今のコロナウイルスの影響に伴い、遠隔でのオリエンテーションや入学式の動画撮影・配信の業務対応を優先していただいたためである。 ※3月の活動については、昨今の情勢からオンライン開催を適宜導入した。</p> <p>3. 開学時から4年制大学にふさわしい教育研究活動を行うことを目的として、各種委員会を設置し、諸規定を整備し施行した。各種委員会一覧は別添する(③東京国際工科専門職大学 大学設置に伴い整備した規定素案一覧)(2)</p>	履行済
認可時 (令和2年)	<p>同じ授業回数で異なる単位数(1.5単位や2.0単位など)が設定されている科目があることから、科目ごとの予習・復習内容も含めて、どのような考え方で単位数が設定されているのかシラバスにより明らかにすること。</p>	<p>本学で導入したシラバスの閲覧ができるシステムであるLMS(Learning Management System)上に、単位数の考え方について、各科目の予習・復習の内容と考え方も含め、授業形態ごとに分けて詳細を説明した資料を常時掲示するほか、お知らせにて学生に徹底周知を行った。実際に通知した資料を別添する(④単位設定の考え方)。(2)</p>	履行済

区分	附帯事項等	履行状況	今後の実施計画
認可時 (令和2年)	留学生について、入学後の学力の差異を補完するために「基礎数学」、「基礎英語」、「基礎物理」、「基礎日本語」も卒業要件に関係しない補講として行うと説明があるため、いつ、どのように開講されるのか、学生に対して事前に説明を行うこと。	<p>入学予定者への手紙による通知、および初回オリエンテーション（遠隔）にて、留学生のみならず、全学生に対して学力の差異を補完するために、補講科目について説明を行った。以下、詳細を説明する。(2)</p> <p>【当初の予定】 合格通知とともに手紙を同封することで補講科目について、基本的に参加必須（学力の補填が必要）か否かを判定するために、4/6, 7に日本語科目を除く、数・英・物のプレースメントテストを実施すると通達した。実際に通達した手紙を別添する(⑤入学後の学習サポートについて)。</p> <p>【新型コロナウイルスによる変更1(3月)】 新型コロナウイルスの影響から、4/6, 7のプレースメントテスト実施を4/17, 18に延期することを通達した。</p> <p>【新型コロナウイルスによる変更2(4月)】 4/2遠隔に変更の上で初回オリエンテーションを実施し、そこで、プレースメントテストの実施時期の説明(5/8-16に再延期)、補講科目の対象者(テストの点数が取れなかったもの、点が取れたが参加したいもの)と、実施予定日(通常授業と同時開催で月・火・金の6限目)を開講すると説明を行った。</p> <p>【新型コロナウイルスによる変更3(留学生への対応)】 「基礎日本語」については、新型コロナウイルスの影響による入国不可能でまだ日本に入国できていない留学生がいることや、対象者が8名(永住ビザを保持しているものも含む)と少人数であること、日本語検定N1を保持している学生もいる等の事柄を考慮し、希望する留学生のみの受講とし、対面での通常授業が再開してから個別に対応することで検討した。</p> <p>なお、令和3年度は予定通り、入学予定者への手紙による通知、および入学オリエンテーションでの説明を行えている。(3)</p>	<p>なお、5月19日に本事項について履行済みとなったため、以下に追加で説明する。(2)</p> <p>5月4日の政府発表による緊急事態宣言の延期に伴い、5月6日に対面授業開始を5月19日から6月15日に延期したことを通達した。あわせて、プレースメントテストを5/16に延期し、対面ではなくLMSシステムを利用した遠隔で実施することを通達した。(2)</p> <p>5月16日に実施したプレースメントテストの結果をもって、5月19日から「基礎数学」、「基礎英語」、「基礎物理」をの補講を開始した。なお「基礎日本語」については引き続き日本に入国できていない留学生がいるため、時差なども考慮し、別日程として7月20-26日をテスト期間とし、補講の開始は後期の授業開始(10月5日)からとし、該当学生に通達した。(2)</p>

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<工科学部 情報工学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>①学則の変更について 学則については、認可申請書に提出したとおりである。</p> <p>② 新型コロナウイルスの影響について 記載なし。</p>	<p>1. 変更の事由 以下に掲げる事由等により、東京国際工科専門職大学学則の一部を変更した。 現在、本学の「学則別表」となっている下記3表について、学生が情報を参照しやすくすることを目的とし、「学則別表」ではなく、「別に定める」こととする。これに伴い、学則別表の削除及び一部条文の変更を行う。 別表1 授業科目及び単位数 別表2 卒業・修了要件 別表3 授業料等</p> <p>2. 変更の時期 令和3年4月1日</p> <p>なお、本件については令和3年3月に文部科学省に既に届出済みであり、内容の修正はない。</p> <p>1. 遠隔授業の実施について 昨年度に引き続き、学生の安全を考慮し、かつ学びの場の提供を止めないようにするために、一部授業について、対面ではなくオンラインで授業を実施している。対面の授業からオンラインの授業と臨時的に変更している授業は以下の通りである。 【一年次】 <オンライン> ・情報工学概論 ・企画発想法 <オンラインと対面の併用> ・コンピュータシステム ・感性をはかる ・情報工学概論 ・比較文化論 ・英語コミュニケーションⅠa ・(補講科目) 基礎英語、基礎物理、基礎数学 【二年次】 <オンライン> ・比較文化論 ・確率統計論 ・英語コミュニケーションⅡa ・自然言語処理(選択科目) ・データベース基礎と応用(選択科目) ・人工知能数学(選択科目) ・制御工学基礎(選択科目)</p> <p>この変更によって、学生の通学日数を週1~3とすることが可能となり、通学日数を50%以上削減することが可能となっている。</p> <p>2. CO2濃度・湿度等の計測実施について 新型コロナウイルス蔓延防止策として、入学者選抜試験や入学式等の人が密になりやすい行事には検温やアルコール消毒の徹底はもとより、本学ではCO2濃度計測も実施している。 実施当初は、ポータブルのCO2濃度測定器を人の手によって移動させることで計測を行っていたが、本学専任教員の手によって計測システムのプロトタイプの作成し、遠隔でモニタリングできること、急激なCO2濃度の上昇などがリアルタイムで把握できて即座に換気を強化するなどの対応ができることを技術的に確認した。 入学者選抜終了後も、入学式の会場や使用頻度が高い教室等、時間と場所を限定してではあるが計測を継続している。このことは、本学では学生・教職員とも未だに感染者を発生させることなく学校を運営できていることに貢献していると考えている。(2、3)</p>

(注) ・ 1~6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

開学と同時に、東京国際工科専門職大学のFD（ファカルティ・ディベロップメント）委員会規定を施行し、FD委員会を設置した。同様に、開学と同時に、東京国際工科専門職大学 SD（スタッフ・ディベロップメント）委員会規定を施行し、SD委員会を設置した。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

開学したばかりの大学のため、教員の資質の維持向上については、全体のFD活動は勿論、初めて授業を担当する教員を中心した活動もあわせて実施した。

なお、委員会の開催としては、計画通り年1回以上の開催を実施し、FD活動も計画通り実施できている。

開催状況

【FD委員会】

第1回FD委員会（2020/09/17）専任教員3名、職員1名：第1回全体FD研修会について

第2回FD委員会（2020/11/25）専任教員3名、職員1名：第2回全体FD研修会について

第3回FD委員会（2020/11/30）専任教員3名、職員1名：第3回全体FD研修会について

第4回FD委員会（2021/02/19）専任教員3名、職員1名：第4回全体FD研修会について

【SD委員会】

第1回SD委員会（2020/05/12）職員3名：SD委員会の趣旨確認、今年度のSD活動の計画について

第2回SD委員会（2021/03/22）職員3名：10月のSD活動の報告、来年度のSD活動について

c 委員会の審議事項等

委員会で審議する事項

(FD委員会)

- ・学部にも所属する教員の教育指導方法の改善及びFD活動に関する事項
- ・学部で実施する教育改善及びFD活動に関する事項
- ・その他、学部長または教授会により審議を付託された事項

(SD委員会)

- ・SD活動の推進計画に関する事項
- ・SD活動の実施に関する事項
- ・その他SD活動推進に必要な事項
- ・その他、学部長または教授会により審議を付託された事項

② 実施状況

a 実施内容

(FD活動内容)

<全体FD>

第1回全体FD活動（2020/09/24）：前期授業の振り返り、科研費の申請について

第2回全体FD活動（2020/11/26）：実習運営を念頭に置いた企画発想法、プロジェクトマネージメント講座

第3回全体FD活動（2020/12/24）：授業間の横連携、学生評価、学生とのコミュニケーション、長期休暇に向けて

第4回全体FD活動（2021/02/25）：特許・外為・資金の使い方・著作権について

<授業開講前教員向けFD>

2020年度後期授業担当者向け

第1回個別FD活動（2020/07/27）：専門職大学について、科目・授業の組み立て方

第2回個別FD活動（2020/07/30）：アクティブラーニングについて

第3回個別FD活動（2020/08/27）：授業計画・教材作成について

第4回個別FD活動（2020/09/12）：学修評価について

第5回個別FD活動（2020/09/26）：主に模擬授業

2021年度授業担当者向け

第1回個別FD活動（2021/03/27）：専門職大学について、科目・授業の組み立て方

第2回個別FD活動（2021/04/02）：アクティブラーニングについて

第3回個別FD活動（2021/04/06）：授業計画・教材作成について

第4回個別FD活動（2021/04/10）：学修評価について

第5回個別FD活動（2021/04/22）：主に模擬授業

(SD活動内容)

第1回SD活動（2020/10/28）：専任教員による本学の養成する人材像と教育課程への理解促進

b 実施方法

FD/SD委員会ともに、新型コロナウイルス感染症を考慮し対面とオンライン双方を利用した実施。
また、個別FD活動の最終回は模擬的に授業を実際に行う方法を取った。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

（FD活動内容）

<全体FD>

- 第1回全体FD活動（2020/09/24）：（対象者）全専任教員及び一部非常勤
- 第2回全体FD活動（2020/11/26）：（対象者）全専任教員及び一部非常勤
- 第3回全体FD活動（2020/12/24）：（対象者）全専任教員及び一部非常勤
- 第4回全体FD活動（2021/02/25）：（対象者）全専任教員及び一部非常勤

<授業開講前教員向けFD>

2020年度後期授業担当者向け

- 第1回個別FD活動（2020/07/27）：（対象者）一年次後期から授業を担当する専任教員及び一部非常勤
- 第2回個別FD活動（2020/07/31）：（対象者）一年次後期から授業を担当する専任教員及び一部非常勤
- 第3回個別FD活動（2020/08/27）：（対象者）一年次後期から授業を担当する専任教員及び一部非常勤
- 第4回個別FD活動（2020/09/12）：（対象者）一年次後期から授業を担当する専任教員及び一部非常勤
- 第5回個別FD活動（2020/09/26）：（対象者）一年次後期から授業を担当する専任教員及び一部非常勤

2021年度授業担当者向け

- 第1回個別FD活動（2021/03/27）：（対象者）二年次から授業を担当する専任教員及び一部非常勤
- 第2回個別FD活動（2021/04/02）：（対象者）二年次から授業を担当する専任教員及び一部非常勤
- 第3回個別FD活動（2021/04/06）：（対象者）二年次から授業を担当する専任教員及び一部非常勤
- 第4回個別FD活動（2021/04/10）：（対象者）二年次から授業を担当する専任教員及び一部非常勤
- 第5回個別FD活動（2021/04/22）：（対象者）二年次から授業を担当する専任教員及び一部非常勤

（SD活動内容）

- 第1回SD活動（2020/10/28）：職員12名、教員4名（専任教員4名）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・緊急事態宣言の中、遠隔による授業を開始できた。

遠隔授業の開始については、環境構築期間（～4/19）・移行期間（4/20～）を分けて対応し、学生に遠隔での授業開始は勿論、入学式やオリエンテーションなども合わせ遠隔にて実施できた。加えて、5/19以降から順次対面授業を実施し、かつLMS等を利用したオンラインでのコミュニケーションも合わせて運用できている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

前期授業終了時と後期授業終了時に実施する。

b 教員や学生への公開状況、方法等

教員にはアンケート結果を数値化してフィードバックを行う。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況（各区分を踏まえた委員構成を踏まえた委員の追加や交代状況含む）

産業界及び地域社会との連携により、教育課程を編成し、及び円滑かつ効果的に実施するために、教育課程連携協議会を設ける。教育課程連携協議会は、次の者を持って構成する。

- (1) 学長が指名する教員その他の職員
- (2) 本学の課程に係る職業に就いている者又は当該職業に関連する事業を行う者による団体のうち、広範囲の地域で活動するものの関係者であって、当該職業の実務に関し豊富な経験を有するもの
- (3) 地方公共団体の職員、地域の事業者による団体の関係者その他の地域の関係者
- (4) 臨地実務実習（専門職大学設置基準第二十九条第一項第四号に規定する臨地実務実習をいう。）その他の授業科目の開設又は授業の実施において当該専門職大学と協力する事業者
- (5) 本学の教員その他の職員以外の者であって学長が必要と認めるもの

なお、2名の構成員について退職に伴う交代、その他複数の構成員についても役職変更などがあったため、別添資料に令和3年4月1日時点の委員名簿と委員名簿の新旧対照表を添付する。

交代となった構成員名簿No. 6の日本電信電話株式会社西村氏に代わり構成員となる同会社・同部署の福永氏は、平成10年日本電信電話株式会社入社。以来、同社研究所において、暗号技術の研究、ICカードの開発等セキュリティ技術関連の研究開発に従事。平成27年からは、同社本社組織においてNTTグループの電気通信設備のセキュリティ業務に従事したほか、セキュリティ関連研究所にて人事・人材育成業務、研究マネジメント業務等に従事。加えて、前構成員の西村氏の後任として現職を務めており、後任として相応しい。

交代となった構成員名簿No. 7の富士通デザイン株式会社入江氏に代わり構成員となる富士通株式会社の中山氏は、前職で法人事業戦略本部戦略事業統括部首席エバンジェリストとしてiPhoneおよびiPadのビジネス推進などを主に担当しiPhone関連の書籍の執筆活動や複数のTV番組出演でのiPhone訴求など、iPhone、iPadのエバンジェリストとしての活動をしつつ、国内20以上の大学での特別講師も務める。加えて、ソフトバンクのパーソナルロボットPepperや米IBMの人工知能システムWatsonのエバンジェリストも務める。現職においても富士通の常務理事首席エバンジェリストとして本学の情報工学科と非常に密接するスマートテハイス、クラウド、ロボット、AI、IoTといった5分野を得意分野とし年間約300回の全国各地での講演活動を通してビジネスユーザーへの訴求活動を実践。さまざまな書籍の執筆活動や複数のTV番組出演での訴求など、エバンジェリストとしての活動をしつつ、国内30以上の大学での特別講師も務めている。よって、本学の教育課程連携協議会の情報工学科の協力区分の構成員として相応しい。

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

令和2年7月29日に第一回教育課程連携協議会を令和3年3月22日に第二回教育課程連携協議会を実施した。以下、開催状況を記す。

第一回教育課程連携協議会（2020/07/29）

●参加者：15名

【構成員】出席11名（代理出席1名、オンライン参加2名含む）、欠席2名）

【陪席】出席4名（本学教授2名、キャリアサポートセンター長1名、主任職員1名）

※新型コロナウイルスの影響で、代理参加、オンラインでの参加も可とした。

※昨今の情勢上、やむを得ず欠席となった構成員2名を対象に、9月9日に協議会とは別に本学にご参集いただき、当該委員会の審議内容をご報告し確認いただいた。

※教育課程連携協議会規定 第5条に基づき本学の教職員4名が陪席した。

【以下、教育課程連携協議会規定 抜粋】

（非構成員の出席）

第5条 議長は、必要があるときには、教職員を陪席させ、又は構成員以外の者を出席させて意見を求めることができる。

第二回教育課程連携協議会（2021/03/22）

●参加者：17名

【構成員】出席13名（欠席2名）

【陪席】出席4名（構成員所属企業1名、キャリアサポートセンター長1名、本学専任教員2名）

※新型コロナウイルスの影響で、代理参加、オンラインでの参加も可とした。

※昨今の情勢上、やむを得ず欠席となった構成員2名を対象に、3月22日に協議会とは別に、当該委員会の審議内容をご報告し確認いただいた。

※教育課程連携協議会規定 第5条に基づき構成員所属企業1名・本学の教職員3名が陪席した。

【以下、教育課程連携協議会規定 抜粋】

（非構成員の出席）

第5条 議長は、必要があるときには、教職員を陪席させ、又は構成員以外の者を出席させて意見を求めることができる。

c 委員会の審議事項等

- (1) 産業界及び地域社会との連携による授業科目の開設その他の教育課程の編成に関する基本的な事項
- (2) 産業界及び地域社会との連携による授業の実施その他の教育課程の実施に関する基本的な事項及びその実施状況の評価に関する事項

② 審議状況

a 審議した内容

第一回教育課程連携協議会（2020/07/29）

●「地域共創デザイン実習」および「臨地実務実習Ⅰ～Ⅲ」を中心とする本学の実習科目の運用について審議した

第二回教育課程連携協議会（2021/03/22）

●「一年間の教育内容の振り返り」を中心に一年間の報告と実習科目を中心とする今後の運用について審議した

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

第一回教育課程連携協議会（2020/07/29）

「地域共創デザイン実習」及び各「臨地実務実習」等、本学の実習科目は全て2年次以降の実施のため、教育課程の見直しの予定はない。よって、計画通りこれらの科目が実施できるように、引き続き本協議会の参加、授業への参画等について改めて確認を行った。

第二回教育課程連携協議会（2021/03/22）

令和2年度は新型コロナウイルスの影響によるオンラインでの実施状況について中心に審議した。今後も学生の安全面の確保の実施が必要である一方で、対面を必要とする演習・実習科目も用意されていることから、引き続き流動的な情勢に対して臨機応変に登校日数を調整することで、ハイブリット（オンラインと対面を並行）で教育を実施することとなった。

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

第一回教育課程連携協議会（2020/07/29）

b.に記載した通り、実習科目が未開講のため教育課程の見直し予定がない。よって教育課程への反映もない。

第二回教育課程連携協議会（2021/03/22）

b.に記載した通り、引き続きオンライン授業と対面授業を臨機応変に組み込むことによって、計画通り教育課程を進めることとなった。よって教育課程の変更とそれに伴う反映もない。

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学は、学則第2条に基づき、教育研究水準の向上を図り、本学の目的・使命を果たすため、教育研究活動等について自ら点検及び評価を行うため、自己点検・評価委員会を設置し委員会も実施している。自己点検・評価委員会は、学長、学部長、統轄責任者、理事、その他学長が必要と認める者で構成し、規定通り実施した。具体的には令和2年4月15日の大学評議会にて、学長が必要と認めるものとして教員3名、職員2名を指名することを確認し、令和2年4月23日に第1回の委員会を開催し、委員会の役割、活動計画を確認した。今後は他の委員会との連携も視野に入れ開催していく。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

自己点検・評価のための様式を整備したうえで、公表時期を検討する。

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開予定
- ・5月1日 公表

③ 認証評価を受ける計画

完成年度後数年以内に認証評価を受けるべく、大学の認証評価機関を学内で検討中。さらに、専門職大学の分野別の評価を行って頂けるか相談中。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和3年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《 aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

《 aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。